

●富業諸團體の製鐵業關稅對策

製鐵の關稅率改正に關しては別項記載の如く本會に於ては既に當局に建議せるが、其他日本工業俱樂部、製鐵同業會、製鋼懇話會等に於いてそれ／＼審議を凝らし大體に於て其の對案の決定を見たが之等各方面關稅改正案骨子を摘記すれば次の如くである。

日本工業俱樂部

日本工業俱樂部にては今泉嘉一郎氏を主査に磯村、高田、内藤、香村、昆田、三谷の各委員を以て審議せり、大體の意見は大正十一年七月のそれと大差なきも、その當時と多少狀態を異にせるものに就てはこれが改訂をなせるもので、その相違點は左の如くである。

板の中卑金屬を鍍したるもの、乙の一、錫鍍したるもの、乙の二、亞鉛鍍したるものに就ては現時我國にては八幡製鐵所にて製造せる外、民間に於て製造不可能なるを以て現行率の儘とする事、線の中、線索、燃合線及パイブドツイストツイヤを從價三割に改むる事、並に特種鋼のパイブドツイヤに多少の改正を加へたると、ニッケルを現行關稅率にとゞむる事等を改正した。

製鋼懇話會

製鋼懇話會は主として鋼材の關係會社を以て組織せるもの

で日本鋼管、大島製鋼、神戸川崎造船、神戸製鋼所、東海鋼業、大阪製鐵、大阪鐵板其の他より成り其の改正案の内容は下の如くである。

鋼材現行率從價一割とあるを從價二割五分に引上げ而して向ふ五箇年間右改正希望率に据置かれたいと云ふのであるが若し政府にして銑鐵の關稅を現行率より一層引上ぐる事とならば其引上に相當する額を鋼材に就ても引上げられたいと。

製鐵同業會

釜石、三菱製鐵、日本製鋼所、滿鐵、東洋製鐵、大倉鑛業の六大會社より成る製鐵同業會は此の程漸くこれが對案を決定した、而して同會陳情の骨子とする所左の如し。

一、銑鐵は從量稅一噸に付十二圓を課する事、普通鋼材(條竿、鋏、軌條類)は從量稅一噸に付二十圓を課する事、尙ほ鞍山製鐵所製品は内地製品と同様に見做し特別の取扱をなす事、而して今後銳意經營の改善と設備の完成を期し數年の後基礎確立の曉には更に關稅の輕減を行ふも不可なし。尙現在前記六社の銑鐵作業高は既設生産力の半減以下で即ち

| 産地 | 一日生産能力 | 現在作業高 |
|-----|--------|--------|
| 釜石 | 五二〇噸 | 二〇〇噸 |
| 鞍山 | 四四〇噸 | 一一〇噸 |
| 兼二浦 | 三〇〇噸 | 一五〇噸 |
| 東洋 | 四五〇噸 | (八幡委管) |
| 鞍山 | 五〇〇噸 | 二五〇噸 |
| 本溪湖 | 三〇〇噸 | 一三〇噸 |
| 支那 | 漢陽銑鐵 | 三萬噸 |
| 支那 | 漢陽銑鐵 | 三萬噸 |

(但し八幡輸入分を含まず)

| | | |
|----|--------|-----|
| 印度 | タタ銑鐵 | 十萬噸 |
| 印度 | ベンガル銑鐵 | 三萬噸 |
| 印度 | バーン銑鐵 | 五萬噸 |

年額合計二十一萬噸で民間需要高の約半數に達して居る。

而して生産原價に於て本邦銑鐵と印度品との間には著しき懸隔があり、現在印度タタ銑鐵の内地沖着値段は一噸四十六圓之に輸入手数料税金諸掛り五圓を加へて市價五十一圓であるに對し、我國銑鐵の市場渡し原價は約五十八圓と云はれ最近の輸入に不利なる爲替相場を以てして尙タタ銑鐵より七圓の上値にある、之に伴ひ普通鋼材の生産費も内地銑鐵を使用する場合鋼材一噸百二十圓を要するに比し現在中歐諸國からの輸入鋼材は從價一割五分の輸入税を加へ百〇五圓内外で内地品との値開き十五圓を存して居る。

●製鐵所銑鐵產額

本年七、八月中に於ける八幡製鐵所及戸畑作業場銑鐵產額左の如し。

| | |
|-----|-------------------------|
| 七月中 | 三三、四六九・三五〇 ^庄 |
| 八月中 | 三一、八八三・一二〇 |
| 九月中 | 三四、六八二・一四〇 |

●休止中の製鐵所

製鐵事業は戦後財界の反動以來不況の状態にあるが、昨年の震災にて鋼材等の輸入關稅を撤廢した、め一層の輸入激増となり獨逸白耳義の大陸物及び米國材等が案外の割安にて市場取引せられ、内地斯業者の受けたる打撃は甚大なるものがあつた、其後本年三月以後になつて輸入材料が頓に減少し殊に外國爲替の關係にて米國物の輸入がなくなり、一方帝都復興の進捗に伴つて内地の需要増加し

多少の景氣を加へて來たが、それにしても今日迄に受けたる痛手は到底恢復さるべくもない、今回農商務當局の調査に係る主要製鐵所の休止狀況左の如し。

銑鐵主要製鐵所の廢業したるもの
會社名 廢止年度

- 一、高田鑛業株式會社大寺製鐵所(福島) 大正十一年度より
 - 一、日本電氣製鐵株式會社、郡山工場 同上
 - 一、桑原鐵工株式會社(東京) 同上
 - 一、日本製鋼株式會社、岩淵工場 大正十一年度より
 - 一、隅田川精鐵所 大正十一年度より
 - 一、富士製鋼株式會社(神奈川縣大師河原) 大正十一年度より
 - 一、日本鋼管株式會社電氣製鐵所(富山縣伏木) 大正十一年度より
 - 一、三菱造船株式會社、神戸造船所 大正十一年度より
 - 一、廣島鐵工所 大正十一年度より
 - 一、山陽製鐵株式會社(廣島縣) 同上
 - 一、大倉鑛業株式會社、山陽製鐵所(廣島縣小方) 同上
 - 一、日本製鐵株式會社(福岡縣折尾) 大正十一年度より
- 以上の如く銑鐵製造の廢業十二社で事業繼續のものは八幡製鐵所、日本製鋼所(室蘭)、釜石鑛山鑛業所、藤田鑛業廣田製鋼所、日本鋼管會社、安來製鋼所、福岡戸畑鑄物會社、同東洋製鐵會社、三菱兼二浦製鐵所等の九社に過ぎぬ。
- 鋼材主要製鐵所の廢業したるもの
- 一、桑原鐵工株式會社(東京) 大正十一年度より
 - 一、日東製鋼株式會社、月島工場 大正十一年度より
 - 一、同上岩淵工場(東京) 同上
 - 一、富士製鋼株式會社(神奈川縣大師河原) 大正九年度より
 - 一、北村製鋼所(大阪) 大正十一年度より
 - 一、神戸棧橋會社王子電爐工場(東京) 同上

右の通りで廢業六社に過ぎざるが、鋼材の方は銑鐵と異り建

築材料として相當の需要あるため採算上から事業を繼續するもの割合に多く現に八幡製鐵所外二十二社に達して居る、尙鋼主要製鐵所も二十六社中四社廢業して居る有様で如何に困難なる經營を持續して居るかを想像し得る、因に前記廢業社は會社自體が廢業したのでなく、銑鐵、鋼材、鋼の製造だけに限られて居る。

●ピッツバルグ・プラス制度廢止問題

(八月十四日在紐約總領事齋藤博)

在華府合衆國通商委員會は去る七月二十二日附を以てユー・エス・スチール・コーポレーション及其附屬會社に對しピッツバルグ・プラス制度の撤廢命令を發せり、右は通商委員會として最終的行動なるがユー・エス・スチール・コーポレーションは右に對して直に合衆國巡回控訴院に控訴し若し敗訴したるときは合衆國大審院に訴訟を提起する筈にして本件は今後一兩年に亘り係争せらるゝ模様なり。

ピッツバルグ・プラス制度に關し右通商委員會の説明に依れば右制度に依れば在在古市ユー・エス・スチール・コーポレーションの製品値段はピッツバルグ市の同品小賣値段即ち噸三十弗に恰も同品がピッツバルグより市俄古に運送せられたる如くピッツバルグ市、市俄古間の運賃噸七弗六十仙を加算したるもの即ち所謂ピッツバルグ・プラス値段なる三十七弗六十仙とせらるゝが故に市俄古鋼鐵需要者はピッツバルグ市の同業者より正に七弗六十仙多額に支拂はざるを得ざる譯にして同様にピッツバルグ市の需要者がユー・エス・スチール・コーポ

レーションの鋼鐵を噸三十弗を以て購買するに對し、ドル市市の同業者は實際に要せらるゝことなき運賃を併せて四十三弗二十仙を支拂はざるを得ざる次第なり仍て同制度の非點として左の諸點を擧ぐることを得べし。

- 一、公共の利益に背反すること、二、需給の原則に基かざること、三、舊時に行なはれたるスチール・プールの又はゲイリー・ディンナス等を踏襲せる價格決定方法なること、四、ユー・エス・スチール・コーポレーションが鐵業界に占むる優越なる地位に依りて可能なること、五、自由競争を實質的に減滅せしむること、六、競争者を壞滅せしむること、七、競争上の信義に反する價格の差別なること、八、不正なる競争方法なること、九、ピッツバルグ市以外凡ての鋼鐵業中心地の事業を阻害すること、十、鋼鐵製品生産費は年額數百萬弗の不要經費を添加し特に西部十一州の農民の購買する鋼鐵製品生産費に三千萬弗を付加すること、十一、鋼鐵製品價格を騰貴せしむること。

等にして次にピッツバルグ・プラス制度撤廢の利益として右通商委員會の指摘せる點左の如し。

- 一、現在發展を阻止せられ居るピッツバルグ市以外の鋼鐵業界を再建すること、二、南西部地方の鋼鐵需要者に對し同制度の存在に依りて奪はれ居たる地理的特典を回復せしむること、三、製鋼業並鋼材使用産業の集中を打破すること、四、鋼鐵の無益なる交錯的鐵道運搬を止め以て公共の爲に多額の節約を得せしむること、五、製鋼業者間の自由競争を可能ならしむること、六、西部地方製造業者をして東部地方貨物の生産に鋼鐵以外の材料を使用する必

要を除去せしむること、七、同制度の爲破滅せられたる西部地方の多數工場を復活せしむること、八、同制度に依りユ・エス・スチール・コーポレーションが鋼鐵消費者に課したる差別的値段に含まるゝ價格の陰匿を除去し以て製鋼業者をして生産實費を明確ならしめ從て運送實費以外の運送費を課するを得ざらしむると、九、アメリカン・ブリツヂ、アメリカン・スチール・ワイヤー、アメリカン・スチール・チンプレート諸會社の不自然なる特典を消滅せしめ是等を自由競争の地位に立たしむること等なり。

因に經濟記者筋の觀察は大體鋼鐵市場の現状に於ては本件はさしたる反響なるかべく、從て之が爲製造業の革命等を惹起する模様なしと云ふに傾き紐背 ジャーナル・オブ・コンマーシス紙はピツバルグ・プラス制度はロール・スチール製品價格の統一に便益あり同制度は畢竟消費者に取り損害よりも寧ろ利益を與ふるものなりと評し居れり。

●雲南鐵產出狀況

雲南省には鐵鑛山約二百餘箇處あり褐鐵鑛最多く菱鐵鑛赤鐵鑛之に次ぐ同省の如き交通不便なる地に在りては其生産費運賃等嵩み到底海外市場に角逐すべくも非ず從て其開發容易ならず現今其生産は省内の需要を限度としつあるもの如く目下全省年産額約七百八十餘萬斤と稱せらる、其產地別産額概數左の如し。(單位一萬斤)

| | |
|----|-----|
| 鎮雄 | 二〇〇 |
| 習戎 | 一一〇 |
| 鶴慶 | 一〇〇 |
| 晏良 | 六〇 |
| 羅平 | 五〇 |

| | |
|----|-----|
| 雲龍 | 五〇 |
| 師宗 | 四〇 |
| 路南 | 三〇 |
| 牟定 | 三〇 |
| 昆陽 | 二〇 |
| 保山 | 二〇 |
| 劍川 | 二〇 |
| 安寧 | 一〇 |
| 易門 | 一〇 |
| 蘭平 | 一〇 |
| 永北 | 一〇 |
| 計 | 七八〇 |

歐洲戰爭の發生と共に世界市場に於ける鐵價俄に暴騰し外國鐵の輸入困難なりしかば省内各所の鐵鑛業盛に興起し從來僅に省内の需要に應ずるに過ぎざりしも一躍して國外輸出の趨勢を招致し一時利益多かりしが戰爭終了と同時に鐵價低落し再び往時の需給狀態に歸り毎年鎮雄より百萬斤晏良より六十餘萬斤を陸路四川に羅平より數十萬斤を同じく貴州に移出しつゝあるの外は何れも幼稚なる土法に依り鑄鐵と爲し鹽場に使用する鐵鍋並に地方に於ける日用の粗雜なる器具類の製造を爲し省内の需要に供しつゝあるに過ぎざるのみならず省内に何等製鐵工業の見るべきもの無きを以て年々尠からざる鐵釘、生鐵、鐵板、鐵線其他の鐵器具類を海外より輸入しつゝあり。

●龍烟鐵鑛の現状

龍烟鐵鑛は先年安福派要人陸宗輿丁士源等に依りて創業せられ徐世昌、段祺瑞等も皆大株主なるが、政局變遷の影響により現今は全く事業を休止し居れ

り、頃日北京に來たれる該鑛山職員某の現狀談を記述すれば、次の如し。

民國六年歐洲戰爭正に盛なる頃鐵の需要遽増し價格暴騰したるが支那の大冶及東三省の産額には限りが有つて需要に應じ切れなかつた、其時分農商部顧問のアンダーソン氏は宣化驛の陳列室に在つた宣化縣北門の烟筒山の鐵鑛石標本を觀て良質なるを知り自ら往きて探査の結果鑛脈は烟筒門龍門係に至る故日支里に互り概算價值十億元以上に達し地下深處の鑛脈を算外に措くも約七十年間採掘を續け得らるる事が明と爲つた、そこで陸宗輿等の首唱で先づ株金五百萬元を募集し官督商辦事業として陸を督辦、丁士源を會辦農商部技監張新吾を總經理文助を主任技師に擧げ七年冬公司が成立して直に事業に著手し、採鑛、機務、測量、材料、運輸、會計、庶務、分析、醫務、秘書、監工等十一課及四箇の工廠を設け規模宏大で有らゆる各種工程、運搬鐵道及事務所、工人寄舍等を設備して合計百二十餘萬元を投資した、試掘の成績は頗る佳良で鑛石の販賣も相當利益を獲た、然るに精煉には大冶廠に送らねばならぬ爲め運賃高く利益が無い、それで更に株金を増加し煉鐵廠を建築の議が起り約五六百萬元増資の事に爲つたが、安福派全盛時代で増資の事も容易に纏まり民國八年煉鐵廠主任某孫を米國に派遣せり煉鐵鍋爐及び各種機械購入を訂約せしめ竝に米人技師を聘用せしむ、所が翌九年圖らずも安直戰爭起り會辦丁士源等は逃げて了つたので徐世昌は朱寶仁を會辦とし、工事半ばに資金已に盡きた爲め徐世昌、陸宗輿の手で各數十萬元を借入れ事業を繼續したが十一年又奉直戰爭起り徐氏は野に下り、工事は已に十分の八まで竣工してゐたが陸氏

も亦手を引き公司は遂に總經理張新吾に由りて支持せられ毎月借入金爲して俸給支拂を維持した、其内に張は直隸派の勢力を藉る爲め直隸實業廳長嚴智怡を拉して理事長としたので安福系株主から甚だ反對された、張は該鑛の鐵は日本に需要さるべきものであるから十一年秋自ら日本に往き百八十萬元借款の約束をしたけれど歸國後一面には董事會で賛成を與へず一面には直隸省議會で日本資金借入に反對されて遂に中止した、張は諸事製肘さるるを以て病に託して請暇し嚴氏の手で進行を計つたが經營が出来ない是に於て董事會は復た張氏を挽き出して復職せしめ、張は金城農商懋業大陸の四銀行と交渉し四行の引請けた四百萬元の社債を發行する計畫を立て先づ四行から利息一割で百萬元應急借入を行はんとし周作民の斡旋に由りて此相談は成立したが、董事會を通過する事が出来ず公司の俸給は數箇月延滞して支拂の方法なく張氏は復た又辭職した、そこで新董事長の現任交通總長吳毓麟は沈祺を派して代理經理とし三箇月間に公司一切の事を解決し現狀を維持せんとしたが意の如く運ば無い沈は吳の意旨を承くる許りで更に責任を負はず只だ廢物材料を賣拂つて其日を送つて居る、職工や工人等は斯かる現象を見て皆な已に四散して了つた、尙ほ居残つてゐる者も皆な自ら方法を設けて糊口を維持して居る、此事業が這んな失敗に陥つた原因は徐世昌が鑛山の全權を自分一己の勢力の下に集めんとし張新吾は徐系の人で爲い爲め張の借款及び社債計畫に極力反對したからである、聞く所に依れば現に四大煤鑛公司是該鑛山を擔保として銀行團に向つて借款の事を希望し、又白耳義銀公司からも一千萬元投資希望の説あり、之を要するに龍烟鐵鑛は投

資者無きを患へず亦復興不能を患へず、患ふる所は公司關係者内部の意見が紛岐して融和の出來ない事に在るのみと。

●本多博士の近況

歐米視察の途にある東北大學金屬材料研究所長本多光太郎博士は鐵鋼學のオーソリテイとして各國より非常なる歓迎を受け日夜講演攻めに會つて居られた由である日本の學者として此の歡待振りは恐らく空前の事實であるといはれ、シカゴ毎日紙のごときは寫真入り三段抜きで最大の科學者今夕當市著といつた記事を掲載し、英獨の新聞紙もまた同様の取扱ひをし、最近到著した獨逸の雜誌メタル・コンデとスタール・ウント・アイゼンの兩誌は左の如く報じて居る。

ドクトル本多は渡米早々加州大學の懇望を受け講演を試みたが、そのことが翌日の新聞に報道されるや東部中部の大學研究所、協會等から相亞いで續々と講演を申込み、ドクトル本多をして途方に迷はしめた、殊にデトロイト以西の都市では米國鐵鋼協會の各地支部ではプログラムを作製して停車場に着くや直ちに博士を自動車に拉して視察講演歡迎會といふ風に目まぐるしい活動を強ひるといふ有様、當伯林では學界の歡迎殊に熾烈を極めドクトル本多のため獨逸の大家が二日に亘つて學術招待會を催し、獨、和、白の専門大家が伯林大學に參集した席上で、博士は大講演を行つたが其の講演が濟んだあとで集つたオートソリテイ達から種々の質疑を受け、それに對する鮮かな應答振りは學界の驚異とされた。

尙本多博士は英國から再度米國に渡り桑港より本月二十八日歸朝せらるる豫定である。

●大阪に於ける理研聯合大講演會

曩に東京に於て第一回を催して空前の大成功を收めたる工政會主催理化學研究所聯合理工科大講演會は來る十一月十一日より同十五日迄大阪に於て第二回を開催する事となり、大阪市、大阪商業會議所、大阪工業會、關西技術家聯合會等協賛の下に大河内所長始め東西の各試験所研究所の専門大家出席大講演會あるべく、會費金二圓、婦人の聽講をも歡迎する由。

●正 誤 (第十年第八號)

| | | | |
|----|---------|--|--|
| 27 | 上、最後ノ行 | = l | = \sqrt{l} |
| 29 | 上、14行目 | 反射 應 | 反射狀態 |
| 29 | 上、16行目 | A及 B部 | A及 B部 |
| 32 | 下、12行目 | $\pi(\dots) = l\pi(\dots)$ | $\pi(\dots) = K\pi(\dots)$ |
| 32 | 下、13 | $\pi(\dots) = l\pi(\dots)$ | $\pi(\dots) = K\pi(\dots)$ |
| 32 | 下、14 | $\pi(\dots) = l\pi(\dots)$ | $\pi(\dots) = K\pi(\dots)$ |
| 32 | 下、15 | $\pi(\dots) = l\pi(\dots)$ | $\pi(\dots) = K\pi(\dots)$ |
| 32 | 下、18 | $B_1 - \gamma_1$ | $R_1 = \gamma_1$ |
| 32 | 下、20 行目 | $\gamma_2 = \sqrt{\frac{R_1^2 + [3+2 l e^{-1}]}{3K} R_1^2}$ | $\gamma_2 = \sqrt{\frac{R_1^2 + [2+3](K-1)] R_1^2}{3K}}$ |
| 32 | 下、21 | $\gamma_3 = \sqrt{\frac{2R_1^2 + [1+3 l e^{-1}]}{3K} R_1^2}$ | $\gamma_3 = \sqrt{\frac{2R_1^2 + [1+3(K-1)] R_1^2}{3K}}$ |
| 32 | 下、22 | $\gamma_4 = \sqrt{\frac{R_1^2 + (l-1) R_1^2}{K}}$ | $\gamma_4 = \sqrt{\frac{R_1^2 + (K-1) R_1^2}{K}}$ |
| 33 | 上、5行目 | $l_1 = \dots l_2 = \dots K_3 = \dots$ | $K_1 = \dots K_2 = \dots K_3 = \dots$ |
| 33 | 下、5行目 | $K_5 = 2.545$ | $K_2 = 2.545$ |

圖面第十二、第十三、第十四、第十五、左右入レ違ヘ